源政卿朝臣

[illegible]

源政者

[illegible]

法橋[illegible]

[illegible]

寂蓮法師

[illegible]

寂然法師

山[illegible]

寂超法師

[illegible]

殷富門院大輔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大僧正道[illegible]

ゆき重に庭の木葉乃苔さいて
あらしそよりもおとしく

法性寺[illegible]

雪をれのわらや霞ゝらん
かきわれの風こそふし
いかはせのわらしきとへ玉こえて
[illegible]まとせてや思ひそめん

寂蓮法師

あかつきやかなしき山の露をしそ
名もしるの山は神の嵐かれ

前中納言[illegible]

ちらんわかおちらしらかと
摂政関白ちかなら人ちかから
[illegible]

よわしのこ乃木葉ゝまてのわかる
きあかれのあらみてかく

京極摂政家良

みこ君乃やれ葉に風ちらて
ちるなれてい紅ゆるしかり

前関白[illegible]

苔はふかきかとにあ木葉にも
きらふもゆこて思ふ山にと

按大納言公敏

よろしきのはなの霜におかれて
うつろふ色もなをそふかき
智円法師
東路のやちくさの原に宿かりて
露も置けむ花の袖かな
良春法師
秋のゝに露をとむるはなすゝき
くれはてゝこそ花やさく月
清人くわし
くれはてしの霜にうつろひ
木葉しぐるゝのやまかげ
源政宣

秋さむき嵐の音やうつろひて
神無月のまつほどもなし
沙弥蓮政
花の霜の下の色まさる
こゝろの秋のよそにやは見む
寂然法師
なにはもの落葉の野に
貞応三年十一月廿五日内裏に
て百韻のうち秋ふかき
のせよはらひて
沙弥信忠
さしも野のはやくも春の初雪に

ふるさとはまたもみなかりのかや草

仲綱

あれにけるしのはらをのに霜かれて

杉のもとにはいまはのこる雪

藤原家隆

枯はつる霜の下にはさくらはな

冬はよはのつゆやむすふらん

藤原家正

冬されの杜のした草あはれなり

雪のしたにて霜にうもれて

権律師源清

さむしろにまつよもふけぬあらしふく

こそまきてかへすのりと筆

法橋寛誉

むすひをき霜のしたはにあらしふく

庭のあさちにうつる月かけ

法眼源助

うら枯れの松にはいまやしものうへに

まつはまつのとかにかへるらん

道因法師

冬はやまたも霜おきわたしさむしろに

たれにかいかにまちやかねまし

源頼朝

風さへやさむしろのうへにまた寒き

今ハゝもし二葉の山ひろ
寂蓮法師
荒人の花乃ちる庵霜にして
わすれはせのかはき須磨
旬当則綱
きりきりす枯野にさむき霜かれて
えぞ御狩の野のうへにさえくら
前大臣
霜さえ明てもおもかけの
草の原ハ秋霜にまた
土御門右大臣下
宿しかれし花ちる跡のけしきて

けしきの池の山はかすみて
太政大臣
かすみしくよはのかすみに春たちて
吉野の山も中々かすみちるらん
大納言経信
あをきさくはなの咲さかりにかすみて
雪ふりけかすみの松かな
蔵人法師
千鳥なく入江の山の月はれて
うこかぬ波にかすみたなひく
関白左大臣
よ流れの水のかすみかゝりて

明応二年六月独吟千句より

句りおきけ草の花の庭

権大納言宣胤

月はつれもなき秋の袖に祥みて

秋とふみ池の水にならひく

平員宗朝臣

木ゝも色々に紅葉やふかき

二しほいろのこのはゆかし

法眼兼載

かつ暮はてしかぬる秋のほ

浦風の水わけてこほる

権大僧都兼致

庭のおもの雪にかくれて

人まさる一つの行方

多々良政弘朝臣

わが宿の松の秋に色添ふる

色の人やさくらの国

宗祇法師

いかなる法の六経かき続け

わが法のうちに宗本紙

権大僧都兼致

露わけ行の色の山

松本やこゝろにかなふ山

法印約助

暮ぬとも猶こそ見れ花の里
わすれて雲まよひけり山の峯
権中納言宣親
庭の霜こそ梅よりもひとつに火
月ひとりわがやどりかなきえて
後京極摂政
中々にあれたる宿の月影の
嵐のかへる夜半の月影の
前大納言親長
ありとしもなき...の下の...
雪やまのおくにすむらし
権大納言実隆

木葉にも霜ふりおきて
のちの山のはわたる嵐かな
よそ人もあはれ
花ちりの雪のよこまに
はる水の...
参議飛鳥井
今日も暮れ年の思ひて
行くも...の路
前関白
...の...

墨付紙數八十五枚
礼紙五枚